



## WFP 国連世界食糧計画



## WFP の学校給食プログラム

### WFPの目標

- 「子どもを空腹のまま、学校に通わせてはならない。」WFPは2015年までに、空腹状態で学校へ通う世界のすべての子どもへの給食の配給を目指します。WFPは、各国政府、NGO、拠出国、拠出をして下さる企業や団体、個人の皆様との協力のもと、この目標の達成を目指します。
- 空腹状態で学校に通う子どもは世界で6,600万人。これらの子どもたち全員に学校給食を届けるために、WFPは年間32米億ドルが必要になると試算しています。12億ドルあればアフリカに住む2,300万人の子どもに学校給食を配給することができます。
- 過去45年間で、42カ国がWFPからの給食支援を卒業し、自分たちの力で学校給食を実施するようになりました。より多くの国が、WFPの支援を受けながらも、将来的には自国による給食事業を行えるよう、推進しています。

### 学校給食プログラムについて

- 十分に食べ物と栄養を摂っていない子どもは、勉強に集中することが難しいということが分かっています。世界では、6,600万人もの小学生が空腹のまま学校に通っています。このような子どもたちは、アフリカだけでも2,300万人います。
- 現在、7,200万人の学齢期の子どもが学校へ通っていません。貧しい家庭では、子どもを学校に通わせるか働かせるか、どちらかを選ばなければならないこともままあります。
- 学校給食は、子どもを毎日学校へ通わせる重要なきっかけとなります。学校給食は子どものお腹を満たし、子どもは学習に集中できるようになります。出席率も向上します。
- わずか25米セントあれば、一杯のおかゆを給食として提供するのに加え、家庭に持ち帰る食糧1カ月分を提供することができます。50ドルあれば一人の子どもに一年分の給食(持ち帰り食糧含む)を提供することができます。

## 学校における食糧支援のさまざまな形式

### ●給食

学校給食は、WFPが学校で行っている食糧支援の一形式です。子どもたちは学校で朝食または昼食（時には両方）の配給を受けます。この給食は、学校で調理されたり、その地域の調理場等から学校へ運ばれて来たりします。給食の内容は様々で、温かい食事を配給する学校もあれば、栄養価の高いビスケットや軽食を配給する学校もあります。

### ●持ち帰り食糧

学校における食糧支援のもう一つの形式として、「持ち帰り食糧」があります。これは、子どもがきちんと学校に通えば、その子どもの家族全員分の食糧を受け取れるというもの。持ち帰り食糧を受け取るには、子どもが学校へ入学し、一定の日数以上出席することが必須条件です。食糧引換券と同様に、持ち帰り食糧は、子どもたちが学校へ通うようになったことで生じる家計の損失を補う、という意味合いがあります。また、女の子や孤児など、特に弱い立場に置かれている子どもたちとその家族へは、学校給食と持ち帰り食糧を両方提供することもあります。

WFPは可能な限り、食糧の現地調達や、地産地消を推進しています。これは、地域の発展や小規模農家の支援につながります。

## 学校給食の重要性

- **栄養摂取** — 給食を提供すると同時に虫下し薬を投与したり、ビタミン・ミネラル等の微量栄養素を給食に含めたりすることで、成長に必要な栄養を摂ることができます。
- **社会保障** — 学校給食は、飢餓、貧困、児童搾取などの悪循環を断ち切るきっかけとなります。WFPの学校給食は、HIV/エイズに感染した子どもや孤児、障がいのある子どもや元子ども兵にも配給されます。
- **教育の機会拡大** — 学校給食プログラムは、貧しい家庭の子どもを毎日学校へ通わせるきっかけとなります。特に、伝統的に女の子が教育を受けてこなかった地域でも女の子が教育を受けられるよう、女の子に重点的に支援を行っています。
- **その他の利点** — 学校は、村や地域社会の中心的な場です。WFPの学校給食プログラムにより、先生、子どもの親、調理師、子ども、農家や地域農業など、地域社会全体の繋がりがより強くなります。

## WFPの活動

- WFPは毎年平均、60カ国、2,200万人の子どもに学校給食を届けています。
- 2010年、WFPは210万人の女の子と80万人の男の子に持ち帰り食糧を支給しました。

## 2010年 WFPの学校給食プログラム 実施国

